公益社団法人霧島青年会議所　２０１９年度　第五回　理事会　議事録

開 催 日：令和元年５月３０日（木）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２４時００分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　重野　隆太　 君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　鈴吉　美絵　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　田上　俊介　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　盛田　啓仁　　君
6. ２０１９年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. 理事長挨拶

理事長　藏元　国明君

　こんばんは。本日もお集まりいただきありがとうございました。まずは５月例会に関しまして、はじめての取り組みという事でシニアクラブとの合同例会でありましたが、シニアの先輩方からも有意義な時間となった、また来年もして欲しいという声を頂くことが出来ました。続けてやっていければと思います。またその際に選出委員会選挙を実施し、次年度の理事長・監事と決めさせて頂きました。後程、報告もさせて頂きますが、もうそんな時期かと思う次第でありました。次年度段階から考えると１６カ月の中で折り返し地点を過ぎようとしているところでありますが、次年度段階から準備が出来ているところ次年度段階が疎かになってしまっていたところと差が出ているように思います。遅れた時間を取り戻すことはできませんが、まだ時間がありますので知恵を使って汗をかいてみんなの意見を集約して構築して頂けましたらと思います。今９カ月すぎたところですが、私を含めて気が抜けているように感じます。議案上程日のズレが見受けられます。事前に理事役員に目を通して頂けることで精度があがっていくかと思いますので気を引き締めて頂ければと思います。梅雨入りや寒暖の差が激しい時期になりますので体調に気をつけて頂けましたらと思います。

1. 直前理事長挨拶

欠席のため割愛

1. 顧問挨拶

欠席のため割愛

１０． 議長選出

審議事項：理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：専務理事　前田　大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：橋事務局長

　　　議事録署名人：田上副理事長、盛田委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | 〇 | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | 〇 |

　　理事１０名中１０名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | × | 竹下圭一郎 | × | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |
| 東井上陽平 | × |  |  |  |  |  |  |

　　役員５名中、現段階で２名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

審議事項４件　　協議事項６件　　連絡・報告事項５件　となっております。

１４．議事録承認の件

鈴吉　　：誤字脱字、文章構成について指摘させて頂き修正と確認したことを報告させて頂きます。

板元　　：確認し、不備なきことをご報告させて頂きます。

１５．議題

審議事項１：仮会員承認の修正議案（松元　貴洋君）の件

木野田　：本来でしたら会員の承認議案となるところですが、参加ノルマを達成できていないところであります。

板元　　：副理事長からもご説明ありましたが、本人のやる気はあるのですが、参加出来ていない項目がありまして１カ月の期間延長の修正議案となります。

藏元　　：足りていないスケジュールはなにですか？

板元　　：事業と理事会への出席が達成できていません。

鈴吉　　：６月は事業も多いのですが、現在どの事業に参加するという話は出来ていますか？

板元　　：枕崎で実施されるブロック大会に参加出来るとのことです。

前田(大)：多くの拡大をされて有り難いところではあるのですが、前回も延長があった中で、しっかりとスケジュールを押さえるようにしてください。説明の問題なのかなと思いますので担当委員会だけではなく全体でフォローアップをして頂けましたらと思います。

藏元　　：今の件に関しては、入会申込書を書いてもらう時にしっかりと説明をするようにしてください。火曜日に別会がある方もいるのですが、時期的なものもありますので、落ち着いた時期に入会頂くなど工夫をして頂けましたらと思います。

藏元　　：他になきようでしたら、審議に諮りたいと思います。

全会一致で審議可決

審議事項２：正会員承認について（菅　凛太朗君）の件

木野田　：２名の正会員承認議案となります。

板元　　：入会意思の確認、会費についての説明と済んでおります。

前田(大)：配属先の説明をお願いします。

板元　　：人数のバランスがあるのですが、二人とも拡大広報で考えております。

田上　　：基本、紹介者のところに配属という形だと思いますが、バランスを考えた時に多少の振り分けをお願いできましたらと思います。

藏元　　：二人ともＪＣ経験者ということもありますので会終了後に再度考えたいと思います。

常盤　　：菅君の正会員承認の季語が５月なので修正してください。

板元　　：申し訳ありません。修正させてください。

藏元　　：その件に関しては外してもいいのではないでしょうか？

常盤　　：毎月季語を変えるのか、平素で通すのか統一出来れば良いと思います。

藏元　　：他になきようでしたら、審議に諮りたいと思います。

全会一致で審議可決

審議事項３：正会員承認について（永田　純一君）の件

藏元　　：審議

全会一致で審議可決

藏元　　： 今回仮会員の議案はありませんでしたが、この後２名控えているところであります。出来る事ならすべての事業等に参加してもらいたいところですが、仕事もあるかと思いますので理事役員の方でしっかりと声掛けとお願いします。

審議事項４：２０１９年度　７月例会計画書並びに予算書（案）の件

木野田　：７月例会です。変更点としてメインプログラムを追加しております。

板元　　：前回より追加してメインプログラムとして１分間ＰＲを入れております。前に出るのは恥ずかしいとの意見もあったため、椅子を２列に並べて自己紹介形式で１分間ＰＲを行いたく思います。例会前にレクチャーを行ったうえで実施したいと考えております。

重野　　：メモ書きなどできる工夫があれば良いかと思います。

板元　　：実施までに呼びかけ等したいと思います。

南郷　　：予算に関しては見積もりも添付されており問題ないと思います。会員紹介について参考資料は付いてますでしょうか？

板元　　：参考資料の会員一覧のフォルダ内の会員情報を４６名分で配布しようと考えております。

橋　　　：確認ですが、メインプログラムは向き合って実施でしょうか？

板元　　：はい。向き合って一対一で考えております。

田上　　：タイムスケジュールについてですが１回が４０秒でよろしかったでしょうか？

板元　　：はい。その様に考えております。

鈴吉　　：１分間ＰＲは来たメンバーのみでしょうか？

板元　　：そのように考えております。

鈴吉　　：配布資料は全員分ですか？

板元　　：はい、その様に考えております。

鈴吉　　：２０１４年に実施した時は、時間が押したり遅れてきた人をどうするかなど問題がありました。実施までに２カ月ありますので委員会の方で精査頂けましたらと思います。

常盤　　：実際に委員会の方で実施してアンケートにあるように仕事に繋がりそうでしたか？

板元　　：まだ委員会でリハーサル等は出来ておりません。

常盤　　：基本は実際に委員会でしてみないとアンケートの内容が達成できるのか？時間が足りるのかわからないと思いますので、確認をしてください。もう一点ですが、理事会の日程が変わったのであれば実施までのスケジュールなど２８日のままです。これは副理事長の方で確認をしっかりしてください。

井上　　：案内文にないのですが、工夫になると思うのですがＰＲに関連するものを持ってきていいことを会務報告やグループｌｉｎｅ等で周知すると良いかと思います。

藏元　　：他に無きようでありましたら審議を諮りたいと思います。

全会一致で審議可決

橋　　　：休憩動議

セコンド　板元　盛田

２１：４５まで休憩となる。

協議事項１：地域の発展に貢献できるひとづくり事業計画書並びに予算（案）について

鈴吉　　：２回目となりますが、前回より講師並びに日程が変更となっております。詳細は重野委員長より説明します。

重野　　：前回正副と専務と顧問より事前に指摘を頂き対応させて頂いております。内容としまして社会人基礎力は変更ないのですが講師と日程の変更をしております。お目通し頂きご意見お願い致します。

前田(大)：背景の方より意見ありましたらお願いします。

木野田　：背景の前文と後文の繫がりが見えません。原動力となる魅力ある人財となることで労働力人口の流出を防止できるのでしょうか？説明をお願いします。

重野　　：背景１文目の問題定義に関しては、今後予測されるので地域に住み暮らす学生や社会人のレベルをあげて地域を盛り上げていこうと考えております。

木野田　：今の説明では繋がらないのかなと思います。再考してください。

重野　　：伝わるような文言で修正します。

鈴吉　　：補足です。顧問の指摘を計画書の下に記載しておりますが、踏まえて修正をしたのですが再考させて頂きたいと思います。

南郷　　：木野田副理事長と同意見ですが１行目が問題定義とした時に繋がらないと思いますので再考してください。

井上　　：研修事業の背景は難しいと思いますが、指摘を見る限り生産人口が減少しているから優秀な人財を育成する。問題定義に対して解決策として起業家や優秀な人財を育てて人を集める、霧島市から大企業を作るイメージで前文と後文を繋ぐ１文があるといいと思います。

重野　　：貴重なご意見ありがとうございます。

前田(大)：自分の指摘は、経済産業省の背景をそのまま用いていたので自身の言葉で記載するよう修正をお願いしました。今の背景を見てみると後文は理事長の所信ともリンクしており、問題定義が引っかかるのかなと思います。問題定義にフォーカスをあてて作ると良い背景になるのかなと思います。

板元　　：対外目的は良いと思うのですが、検証方法を教えてください。

重野　　：自ら率先できる人財の検証として事業後のアンケートと１カ月後のアンケートを計画しております。また、ハロウィンの事業がある時期ですので、まちづくり事業に参画できた人数を検証材料にしようと思います。

板元　　：対外参加者の割合にもよるのですが、従業員の方については研修後の働き方なども判断材料のひとつになるかなと思います。

重野　　：ありがとうございます。

常盤　　：まだ読んでいる途中ではあるのですが、目的の最初の「研修事業を通じて」と記載があると研修をやる前提となってしまうと思います。目的があっての手法ですので、不要かと思います。

重野　　：確かに順番的におかしいと思いますので再考したいと思います。

盛田　　：対内と対外の目的がある中で、似たような文章となっていますが２つの違いを教えてください。

重野　　：対外に関しては、一歩を踏み出す、率先して行動することを目的とし、対内に関しては、社業の調子が良くなったなど掘り下げていきたいと思っております。

井上　　：目的は常盤監事からの部分を自分も疑問に思っていました。あとは、人財となるという表現をされているのですが、対外は意識を育むなどで対内目的が、人財となるという風になった方が良いかと思います。

重野　　：意識を醸成すると記載していた中で、顧問より指摘を頂きましたので修正しておりました。改めて再考してきます。

藏元　　：今意見があったように、現状からの間がないと思います。生産人口減少の問題に対してこれをして、こうなるという部分がないと思います。私が思うのは、地域経済が発展しない中で、大きい企業がないから外に出る、給与があがらないから子どもを産めない。だから社会人基礎力を学び社業を向上させるというイメージで構築してもらえましたらと思います。目的に関しては、スポットがあたってないというか経営者なのか幹部なのか？広くなりすぎると目的がぶれてくると思う。もう少し、講師と話をしたうえで対象をイメージしてください。

前田(大)：日程に関しては、大会など現状問題ないかと思います。

南郷　　：会場が１２０名入ると思うのですが、参加者がマックス７０名で寂しい感じになると思うのですが、何か対策を考えておりますか？

重野　　：グループワークを考えておりスクール形式ではないので、スカスカになるということはないかと思われます。

南郷　　：参加者が広いなと思ってしまったら成功とは言えないと思いますので対策をお願いします。

木野田　：参加促進方法について、委員長らしい工夫があれば盛り込んで頂けましたらと思います。あと、学校へ訪問とありますが訪問のスケジュールは決まっていますか？

重野　　：まだ決まっておりませんので、早めにアポイントを取りたいと思います。

盛田　　：当委員会も学校訪問を予定しておりますので、また時間の都合を合わせるなどで対応できたらと思います。

橋　　　：学生を呼ばれるとあるのですが、７０名としている中で受付終了のタイミングは決まっていますか？

重野　　：７０名に達した時点で終了と考えております。

橋　　　：ありがとうございます。あと、参加者が学生や社会人となると伝え方も多少変わってくるのかなと思います。その部分も講師の方に事前にお伝えし、皆が理解できる内容にして頂けましたらと思います。

前田(大)：事業対象者に学生も含めるのですか？

鈴吉　　：講師が大学教員ということもあり、追加しております。

前田(大)：であれば、対外対象者に追加をお願いします。あと、講師が大学教員だから安易に対象者を入れるのではなく、背景目的から誰にスポットを当てることでより効果があるのかを考えて記載してください。

南郷　　：予算について数点あります。まずは、年当初に３０万の予算計上していたのですが使用予定が１０万５千円で良いのですか？

重野　　：講師依頼に関する費用が、交通費程度になったもので大きく変更となっております。

南郷　　：あとは、細かい部分です。１７：００終了の計画となっておりますが片付けまで含めて１７：００で良かったですか？

重野　　：片付けを含めた時間で会場を借用するようにします。

南郷　　：今回、ポスターなどは必要ないですか？

重野　　：考えておりません。口コミで集めようと考えております。

南郷　　：横断幕は不要ですか？

重野　　：はい、今回パワーポイントで対応しようと思っております。

南郷　　：講師の依頼に関する部分は書面等で契約を交わしておりますか？

重野　　：次回、お会いする際に書面で頂こうと思っております。

南郷　　：予算書の様式１２，１３の一番上が２０万になっているので修正してください。

前田(大)：まだまだ、内容が定まっていないように思えますので副理事長の方で指導をしっかりとお願いします。また、宿泊に関して個人の場合は源泉がかかりますので、個人なのか企業なのか確認をするようにしてください。

木野田　：パンフレット不要とのことでしたが例会などに来なかった会員にどの様に内容を伝えるのかを考えていてください。あと、グループとワークショップとあるのですが内容の資料があればわかりやすいかと思います。もう一点、タイムスケジュールを見ると休憩が記載されてないので検討ください。

重野　　：対応させて頂きます。

井上　　：人を集めるにあたって、ＷＥＢでもいいのであると説明するものがあるといいと思います。また、企画書は学校等を回る際に使用するのですか？

重野　　：講師との打ち合わせ用で考えておりました。学校などは概要書を作成してお渡ししようと思っております。予算にも反映させたいと思います。

井上　　：企業を回るのは定かではないですが、説明資料があった方が失礼ないのかなと思います。あと、グループワークがあるのですが、メンバーの組み方も重要かと思います。単純に委員会ごととしていいのか？バランスを考えて配置する事で効果のばらつきがないのかなと思いますので委員会の方で検討頂けましたらと思います。

重野　　：ありがとうございます。検討します。

常盤　　：全体的に見た時にこの事業を通じてどうなって欲しいのか？対象者もですが、人数も最善の人数なのか？予算に関して余ることはよいことなのですが、理事長から２０万を使って多くの効果を出して欲しいということなので、いかに効果を生むために使用するのか考えてください。まだ、この事業を通じて参加者がどうなって、どういう影響を受けて欲しいのか、そしてこの地域に何を与えるのかを考えて構築頂ければもっと工夫や細かい資料も出てくると思いますので考えて頂けましたらと思います。

藏元　　：この事業をするにあたって最善がなになのか？広報もですが、パワーポイントの資料が手元にあった方がよりわかりやすいのか？考えて予算を組み、研修来て良かったねと思って頂けるようにして欲しいと思います。あとは、対外対象者のスポットは重要になってくると思いますので、どの層に伝えることでこの地域が良くなっていくのかを考えて設定してください。７０名という人数設定に関して講師の希望なのか、会場の理由なのか見えないので教えてください。

重野　　：選定理由書を追加していないのですが、講師と話したうえでワークショップもあり見やすいので７０名とさせて頂きました。

藏元　　：あと、会場図が添付されていますが、実際の寸法で配置を考え会場の検討をして頂けましたらと思います。

橋　　　：休憩動議

セコンド　木野田　板元

２１：５５まで休憩となる。

協議事項２：２０１９年度　３月例会報告書並びに決算書について

木野田　：２回目となります。正副指摘を青字で対応しております。

板元　　：前回理事会、正副でご指摘頂き所見や引継ぎに追加しております。

南郷　　：決算書は問題ないと思います。差異については記載の上、返金頂いております。

木野田　：審議繰り上げ動議。

セコンド　鈴吉　田上

全会一致で審議繰り上げとなる。

南郷　　：改めて報告です。決算書に関して問題なきことを報告いたします。

審議

全会一致で審議可となる。

出席者確認

顧問　竹下圭一郎くん

役員５名中３名出席となる。

協議事項３：誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）について

田上　　： ２回目の上程となります。前回、青少年事業に寄り過ぎていたこともあり、まちづくり事業として修正をしております。

盛田　　：変更点としては、中身を若い世代の方々にＳＤＧｓ研修としておりましたが、前回指摘を受けて今回、ＥＳＤを学ぶ場として講師打ち合わせをしております。あとは４カ所で実施としていたのですが、一カ所での実施といたします。場所は、市民会館前を考えております。

板元　　：前回と大きく変わったことで、外での実施となりますがレインプランは考えておりますでしょうか？

盛田　　：レインプランは予備日を設けております。

板元　　：予備日の雨天時はどうされますか？

盛田　　：そちらの方は、再度対応できるように計画したいと思います。

常盤　　：対外目的ですが「若い世代の育成を行い」の部分は手法かと思いますので、若い世代を中心とした市民一人ひとりの～としないといけないと思いますが、その際は、背景と繋がってくるのか疑問に思いますので、含めて再考ください。

盛田　　：表現の変更を含め再考したいと思います。

木野田　：背景の最後ですが、参画する仕組みが必要ですと記載があるのですが、イメージ出来ているのか疑問に思います。この仕組みについて対外目的の中でどこにあたるのか教えてください。

盛田　　：目的には記載ないのですが、自分のイメージとしては若い世代を中心とした参加者が必要性を再確認し、学生団体を設立することが理想であると考えています。

木野田　：仕組みとする中で、続いていくような形で計画して頂けましたらと思います。

盛田　　：持続可能なことこそ、仕組みだと思いますので目的の方に背景との整合性がとれるように記載したいと思います。

重野　　：対内目的ですが、発信するとあるのですがイメージを教えてください。

盛田　　：共感の輪を広げていくにあたり、まずは我々がまちづくりの必要性を発信するイメージです。

重野　　：霧島ＪＣがやっているまちづくりを発信することを考えておりましたので、また協力していきたいと思います。

南郷　　：確認ですが、予算は７０万で計上されていますが、当初７０万+協賛で考えていたと思いますが、協賛は不要ということでしょうか？

盛田　　：現状、その様に考えております。

南郷　　：あと、内容として店舗を出して売り上げを一部寄付としてありますが、残りはどの様に使用するのでしょうか？

盛田　　：当日の募金活動も予定しております。参加頂く店舗については、趣旨を説明のうえ出店料を頂き使用したいと思っております。若い世代のブースに関して売り上げが発生する際は、一部寄付と考えております。委員会の中で全額はどうなのかと意見もあり一部としておりました。そこのお金の使い方については取り決めについて確認の上で考えたいと思います。

南郷　　：今回の件について、県に確認中であります。公益社団法人として寄付行為はどうなのかという意見を頂いております。寄付についてどの様に使用するかは、また教えて頂き次第、県の方に確認をとりたいと思いますので早めに教えてください。

前田(大)：今の答弁でも何パーセントなど、アバウトな形で予算を通すわけにはいきません。しっかりと根拠付けるよう委員会の方で作成してください。寄付については、現状厳しいという流れですので、踏まえて計画を立ててください。

盛田　　：明確に記載してきたいと思います。

鈴吉　　：ＳＤＧｓを勉強して学生が出店するという流れは良いのですが、他のお店もでてもう祭り的なイメージですか？

盛田　　：まちづくり事業としてイベントを行う考えでいます。

鈴吉　　：学生ブース以外のことについては、会員の方で進めるイメージですか？

盛田　　：若い世代の人たちにも役割を分担してサポートしてもらおうと思っております。募金活動や広報活動をしてもらうイメージです。

鈴吉　　：会員の関わり方として最初の学びの機会とイベントの手伝いをするイメージですか？

盛田　　：はい。

鈴吉　　：であれば、他のお店を呼ぶ理由があるのかな？と思います。お店はすべて学生の方で出店して運営自体を学生でする方が良いのではと思います。今の多くの店の中に学生ブースが１個であればハロウィン事業の中で、出店しても変わらないのではないかと思います。

盛田　　：子どもたちに決めてもらいたいと思う部分が難しいと考える中で、再度委員会で考えたいと思います。

常盤　　：答弁を聞いている中で、まちづくり事業なのか？子どもたちの育成なのか見えません。目的をみるなかで３００人しか集まらないイベントで目的達成が出来るのか疑問に思います。ふるさと誕生祭などで出した方がより効果的であり仕組み作りになると思います。それが理事長の想いと同じなのかはわかりませんが、１番のゴールは何かを考えた方が良いと思います。

盛田　　：青少年育成の観点から講習会をして、まちの課題・問題点と向き合って解決のために行動する力を育んでもらう部分は育成なのですが、その後に実行することで得る達成感が肝と言いますかゴールであると思っております。その中で他のイベント等で出店するのかについては、委員会の方で考えてきたいと思います。

常盤　　：イベントをする中でテーマも何もないと思います。昨年のエアポートエリアについては、空港周辺のまちの発展というテーマのもと事業をした。これが、何のために集まるのかが全く見えてないので、わかりにくいのかと思います。

竹下　　：この事業はやる意味がありますか？誰もが夢を描けるまちってどんなまちですか？

盛田　　：行ってみたい、住んでみたいまちと考えております。

竹下　　：未来に対して希望をもってまちづくりに参画するってどう意味ですか？

盛田　　：子どもたちのことを考えて、まちの発展を想って行動できる、未来を創っていくという意識を醸造できると考えております。

竹下　　：どの様な状態が、まちの発展ですか？そこが見えてないから事業がブレてる。まちの発展ひとつでも色々あると思います。経済的な発展や人口が増えること心の豊かさなどある中で、どの様な発展を目指すかが明確でない。まず背景に出てこないから目的にもつながらない。よく言われるのがＪＣはイベントをする団体ではない。魚を釣った魚を与えるのでなく釣り方を教える団体と言いますが、何を残していくのか何を伝えたいのかが出てないから若い世代に伝えられるわけがない。今年のスローガンはなんですか？

盛田　　：率先垂範です。自らが率先して行動する　です。

竹下　　：委員会に持ち帰っても答えはないです。まずは委員長が率先して行動した姿を見せないと追いつかないです。まちの発展とはどういうことなのか、自分が夢を描けていないです。どういうことがまちの発展であり、だからこれが必要です。と二言で想いを伝えられないと始まらないです。

盛田　　：ありがとうございます。

藏元　　：そこについては、私が伝えないといけない部分でもありますので、会終了後に副理事長・委員長に今一度伝えたいと思います。

前田(大)：これで誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

南郷　　：休憩動議

セコンド　鈴吉　板元

２２：５０まで休憩となる。

橋　　　：延長動議

セコンド　田上　板元

２４：００まで延長となる。

協議事項４：新入会員オリエンテーション計画書並びに予算書（案）について

木野田　：一回目になります。

板元　　：例年であれば１１月開催であったのですが、先にオリエンテーションが行えればと思っております。参加者予定の新入会員１１名に関しては予定を入れて頂いております。大きな変更点としてシニア会員の方に話をして頂いていたのですが今回昨年のブロック会長の牟田くんに参加頂きＪＣでの学び等について話をして頂こうと思います。

鈴吉　　：新入会員だけなのか、全会員対象なのか？アカデミーまで含めるのか？教えてください。

板元　　：全会員としておりますが、新入会員をメインに考えております。

前田(大)：背景目的は前年度通りですか？

板元　　：はい。昨年同様です。今回は、九州地区より頂いたＪＹＣＥＥ　ＳＥＥＤを使用して進めたいと思っております。あと、昨年の山田先輩の話に感銘を受けたとの意見もありましたので資料の方を頂き委員会にて説明をしたいと思っております。

重野　　：協力者が牟田くんとなっておりますが、すばらしいＪＹＣＥＥだと認識しておりますので有意義な時間となると思います。つきましては参加促進方の方に全会員に対しての事項も追加頂けましたらと思います。あと、アンケートは新入会員と歴の長い会員とで分けた内容で良いのかなと思います。

板元　　：見直したいと思います。

橋　　　：ＪＹＣＥＥ　ＳＥＥＤについて良いものなのですが、淡々と流すよりも途中で説明を入れるなどの工夫があると良いと思いますので検討お願いします。また、ＪＹＣＥＥ　ＳＥＥＤの内容についてわかるような資料等あれば判断と材料になりますので追加お願いします。もう一点、アンケートですが目的の能動的に活動できる人財の部分を検証できる方法を考えて頂けましたらと思います。

板元　　：内容については、次回追加したいと思います。アンケートも重野委員長の意見と合わせて修正して参ります。

南郷　　：今回会場はＪＣ会館とのことですが駐車場の準備をお願いします。

板元　　：京セラの方に確認の上、お借りできるようにしたいと思います。

鈴吉　　：予算についてですが　使用する資料のＮＥＷ　ＪＣの購入はなかったですか？

板元　　：今残りが５冊ですので購入をしたいと思います。予算については委員会なのか、図書費なのか執行部の方に確認したいと思います。

盛田　　：進行表の中に質疑がありますが、これは新入会員からする予定ですか？

板元　　：可能であれば新入会員の方からと考えております。

盛田　　：わからないことが、わからないということもありますので、活発な意見が交換できる内容にして頂けましたらと思います。

田上　　：オリエンテーションが７５分と長ければいいということではないのですが、しっかりと伝えるべき部分は伝えることができるようにしてください。

竹下　　：ＪＹＣＥＥ　ＳＥＥＤをこの時期まで見せない理由を教えてください。

板元　　：ダウンロードがうまくいかず準備が出来てない状況です。

竹下　　：審議をとらないと見せることができないのですか？

板元　　：オリエンテーションで使用することでより効果的に伝えることができると思っており見せておりません。

竹下　　：では、それまで見せないのですか？

板元　　：補足資料や説明を入れながらオリエンテーションで使用した方が良いと思っております。

竹下　　：質問の意図は、何のためにオリエンテーションをするのか？入っている人に対してのフォローって何をしているのか？オリエンテーションまで知らずにＪＣをするのですか？

板元　　：確かにそうです。

竹下　　：時期として、この時期にオリエンテーションをする意味はなんでしょうか。昔は前期後期でオリエンテーションがありました。時期を逃すとＪＣの本質を知らずに辞めていく人もいるかもしれないです。その対策って何かできていますか？

板元　　：現状対策をしていません。

竹下　　：今入っている人に対して、今このタイミングで何ができるのかを踏まえてオリエンテーションをどこに繋げていくのかを考えないといけないです。ただなんとなくのオリエンテーションであればやらなくて良いと思う。オリエンテーションの中で、３分間スピーチや作文を作ってきてもらうなどの設えがあれば、会員参加者も増えると思う。そうなるとある程度理解した上で、オリエンテーションに入る。ただＪＣを知ってもらうだけのオリエンテーションであればもっと早くしないといけないです。誰かが気付いて変えないといけないと思います。価値観を変えてオリエンテーションをどの位置づけでするのかを考えてもらえましたらと思います。

板元　　：今一度、何のためにするのかを考えて再考したいと思います。

藏元　　：誰のためにかを今一度考えて、有意義な時間となる様に委員会を中心として考えていければと思います。

前田(大)：以上で、新入会員オリエンテーション計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項５：２０１９年度８月通常総会計画書並びに予算書（案）について

鈴吉　　：１回目の上程となります。背景目的からご意見頂けましたらと思います。

重野　　：前回の正副での意見対応しております。１月総会の反省点を基に計画を作成しております。議決権に関しては、出席率が低下するのではないか？などのご意見もありましたが、議決権の中に意図を追記し、参加頂けるような設えを準備したうえで引き続き実施したいと思います。

竹下　　：質問です。８月通常総会をどの様な状態にしたいですか？

重野　　：多くの会員で議決したいと考えます。

竹下　　：そうだと思います。そこが議案に反映されておりません。最近の例会の出席率が悪い原因はなんですか？なぜ出席率が悪いのかを誰かが追及しないといけません。設えが悪いのか、内容なのか事前準備なのか、もっと追及して考えてください。重野委員長の委員会のテーマは、総務が変われば組織が変わるであったと思います。総務は、内容がないので出席率に拘った議案を作ってください。それを他の委員会が真似をしていけば例会も出席率が向上すると思います。

重野　　：ありがとうございます。

木野田　：手法説明に参加促進を色々と記載頂いているのですが、重野委員長の良さを活かして精査してもらえたらと思います。

重野　　：参考にさせて頂きます。

前田(大)：電子媒体で配信するとあるのですが、当日会員が忘れることへの対応かと思いますが、なぜ会員は忘れるのか追及していますか？

重野　　：重要度が低いからだと思います。

前田(大)：忘れるからと言って、仕事において大事な資料を忘れたら仕事にならないと思います。その際に忘れるから電子媒体にしますか？

重野　　：それもひとつの理由ではあるのですが、昔ながら続くものであるから送付という形をとっていたのかと思い、今の社会環境で考えた時に電子媒体でも効率が良いのでは思っています。

前田(大)：大切な総会資料なので、会員として目を通す。そしてしっかり持っていくという意識が出席率向上に繋がると思います。意見にあるように他の人に意見を聞いて対応して欲しいと思います。変えることも大事ですが、一般常識としてやらないといけないことはＪＣとして残すべきだと思います。

鈴吉　　：補足ですが、電子媒体で確認頂きという流れで考えていたのですが、説明不足もありました。また、その件について意見を集約していないこともありますので対応させて頂きます。

藏元　　：今の意見はアドバイスになるかと思います。組織のことですので、真摯に受け止めて頂いたうえで、委員長は勿論ですが皆で考えていければ良いと思います。

前田(大)：以上で、２０１９年度８月通常総会計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項６：２０１９年度４月例会報告書並びに決算書について

田上　　：１回目の上程となります。４月に開催しました例会についての報告になります。なかなか意見が出なかったという中で、報告書に反映させて頂いております。詳細は委員長より説明します。

盛田　　：副理事長からもありましたがディスカッションについてですが、なかなか意見がでにくい形となってしまいましてすいませんでした。一回目の報告ですので、委員長所見を読ませて頂きます。

竹下　　：委員長は、メインプログラムが充実すれば出席率の向上に繋がると思っていますか？

盛田　　：充実と言いますか会員の興味をひくことができれば出席率の向上に繋がると考えています。

竹下　　：内容次第で出席率があがるということですね。

盛田　　：メインプログラムのない例会もあり、様々な要素があって変わるとは思いますが、多少なりとも変動があると思います。

竹下　　：メインプログラムの内容がおもしろくなさそうで来なかった人数は何人ですか？

盛田　　：把握してないです。

竹下　　：だと思います。所見にメインプログラムのことばかり記載されていますが、本当は例会に来てもらうためにすることが足りなかったではないのでしょうか？リハーサルはそのうちのひとつ。動員を図るうえでなにか足りなかったのだと思う。そこを検証しないと次も同じようになると思う。しっかりと検証すべきところを検証しないといけないと思います。そもそも出席率をあげるために委員会でしたことを教えてください。

盛田　　：参加促進の部分に記載されている部分や個別で連絡をとって確認をお願いしました。

竹下　　：それで、結果が出ていないのはどうしてですか？

盛田　　：出席率の向上について、検証できていません。

竹下　　：拘るべきところが間違っています。月に１回しかない例会に会員が集まらないと組織は衰退します。例会はメインプログラムではなく徹底して出席率に拘らないといけないです。その拘りが見えないから結果が出ないのだと思います。めちゃくちゃでもいいから出席率をあげる計画を作って欲しいと思います。出席率の低迷に誰も気づけていないのは危機感が薄れているからだと思います。良い事業でも人が集まらないと良い事業ではないです。人が集まることで検証できて次につながるから意味があります。もっと出席率に拘って検証してください。

盛田　　：しっかりと出席率に拘って検証したいと思います。月１回の例会で会員が自覚をもって参加できるよう今後の例会に繋がるような方法を考案できるよう検証としてきます。

竹下　　：原因のひとつは優先順位が低いからだと思います。では、なぜ優先順位が低いのか、優先順位をあげるために何をしないといけないのか？調査してみてください。

藏元　　：この件に関して答弁は盛田委員長が受けておりますが理事役員全員で考えるべきことだと思います。調査したうえで、みんなで考えていければと思います。

監事講評

井上　　：お疲れ様でした、今回の理事会ですが開会直前に差し替えがあったり、進行に遅れが出たりとありました。次年度段階も合わせるとちょうど折り返し地点となります。自分自身も含め今一度気を引き締めていければと思います。内容については、それぞれの役職の中で役割や自分の役職は何をしなければいけないのかを考えた方が良いのかなと思いました。総務の議案でも予算面で財政局長から多くの指摘がありました。事前に財政に確認をしておくべきであったのではないかと思います。委員長もですが副理事長が事前に確認しておくべきであったのではないかとも思います。委員長は、どの様な意思をもって委員会にのぞまないといけないのかを整理しないといけないかと思います。理事長の所信をもとにした事業を構築するために、何をしないといけないのかをしっかりと考えて計画を構築して頂けましたらと思います。

常盤　　：令和１回目の理事会となり、モチベーションもあがっているかと期待してはいたのですが、井上監事からもありましたように差し替えや内容を見る限り中だるみがでているのかなと感じました。そこらへんは今一度締めなおして頂けましたらと思います。内容は正会員が２名増えるなど、勢いを継続していければと思います。あとは、オリエンテーションのところで思ったのですが、顧問より言われた部分についても自分自身も今まで気づけなかったことであったと思いました。あと７カ月で経験豊富な人財も卒会を迎えます。若い世代は特にですが今のうちに経験者から知識や経験を吸収して今後に繋げて頂けましたらと思います。出席率に関してもあと７カ月で卒会の人たちがほぼ１００％ですので、来てない人達をどの様に動かすかについて助言をもらうなりしていければと思います。

次回開催

令和元年　４月　９日　　第６回正副理事長会議

令和元年　４月３０日　　第６回理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平　　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　田上　俊介　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　盛田　啓仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞